

# ヘザウィック・スタジオ展：共感する建築

2023年3月17日(金)ー6月4日(日) 東京シティビュー(六本木ヒルズ森タワー52階)

日本初！世界が注目のデザイン集団、

ヘザウィック・スタジオの主要プロジェクト28件を一挙展示！

森美術館は、2023年3月17日(金)から6月4日(日)まで、東京シティビュー(屋内展望台)において、「ヘザウィック・スタジオ展：共感する建築」を開催します。

1994年にロンドンで設立されたヘザウィック・スタジオは、ニューヨーク、シンガポール、上海、香港など世界各地で革新的なプロジェクトを手掛ける、現在、世界が最も注目するデザイン集団のひとつです。創設者トーマス・ヘザウィック(1970年、英国生まれ)は、子どもの頃、職人が作った小さなものに宿る魂に心を躍らせていたといいます。建築という大きな建物や空間にも、その魂を込めることはできるのか。この問いがヘザウィック・スタジオのデザインの原点となりました。全てのデザインは、自然界のエネルギーや建築物の記憶を取り込みつつ、都市計画のような大規模プロジェクトもヒューマン・スケールが基準となるという信念に基づいています。その根底には、プロダクトや建築物というハードのデザインよりも、人々が集い、対話し、楽しむという空間づくりへの思いがあるのかもしれませんが。モノやその土地の歴史を学び、多様な素材を研究し、伝統的なものづくりの技術に敬意を払いながら、最新のエンジニアリングを駆使して生み出される空間は、誰も思いつかなかった斬新なアイデアで溢れています。新型コロナウイルスのパンデミックを経て、わたしたちが都市や自然環境との関係性を見直すなかで、ヘザウィック・スタジオのデザインは、来る時代に適う、これまで以上に豊かな示唆を与えてくれることでしょう。

本展は、ヘザウィック・スタジオの主要プロジェクト28件を天空の大空間で紹介する日本で最初の展覧



《リトル・アイランド》  
2021年  
ニューヨーク  
撮影：ティモシー・シェンク

会です。試行錯誤を重ね、新しいアイデアを実現する彼らの仕事を「ひとつになる」、「みんなとつながる」、「彫刻的空間を体感する」、「都市空間で自然を感じる」、「記憶を未来へつなげる」、「遊ぶ、使う」の6つの視点で構成し、人間の心を動かす優しさ、美しさ、知的な興奮、そして共感をもたらす建築とは何かを探ります。

プレスリリース

お問い合わせ「ヘザウィック・スタジオ展：共感する建築」広報事務局(共同ピーアール内)：中込、菅原、國時、中井  
Tel: 03-6264-2059 E-mail: hs-pr@kyodo-pr.co.jp

## 開催概要

**展覧会名:**「ヘザウィック・スタジオ展：共感する建築」

**主催:** 森美術館

**協賛:** 株式会社大林組、清水建設株式会社、三井住友建設株式会社、アラップ、株式会社日本設計、株式会社日建設計、株式会社山下設計、浅海電気株式会社、フジテック株式会社、株式会社関電工、株式会社きんでん、株式会社九電工、斎久工業株式会社、三建設備工業株式会社、三機工業株式会社、高砂熱学工業株式会社、東芝エレベータ株式会社、株式会社雄電社

**企画:** 片岡真実(森美術館館長)

**会期:** 2023年3月17日(金) - 6月4日(日)

**会場:** 東京シティビュー(六本木ヒルズ森タワー52階)

**開館時間:** 10:00-22:00(最終入館21:00) \*会期中無休



### 入館料:

	[ 平日 ]		[ 土・日・休日 ]	
	当日窓口	オンライン	当日窓口	オンライン
一般	2,000円	1,800円	2,200円	2,000円
学生 (高校・大学生)	1,400円	1,300円	1,500円	1,400円
子供 (4歳～中学生)	800円	700円	900円	800円
シニア (65歳以上)	1,700円	1,500円	1,900円	1,700円

- \* 事前予約制(日時指定券)を導入しています。専用オンラインサイトから「日時指定券」の購入が可能です。
- \* 当日、日時指定枠に空きがある場合は、事前予約なしでご入館いただけます。
- \* 本展(東京シティビュー)の入館料に、一律+500円の追加料金にて森美術館へご入館いただけます。
- \* 森美術館の入館券をお持ちの方は、一律+700円の追加料金にて本展(東京シティビュー)へご入館いただけます。
- \* なお、2023年3月17日(金)から3月26日(日)の期間中、本展と、森美術館にて開催中の「六本木クロッシング2022展：往来オーライ!」を両方ご鑑賞いただけるお得なセット券を、平日オンライン限定で販売いたします。料金は、一般2,200円、学生(高校・大学生)1,700円、子供(4歳-中学生)1,100円、シニア(65歳以上)1,900円。
- \* 表示料金は消費税込。
- \* 森アーツセンターギャラリー、スカイデッキ(屋外展望台)へは別途料金がかかります。

**一般のお問い合わせ:** Tel: 050-5541-8600(ハローダイヤル) 森美術館ウェブサイト [www.mori.art.museum](http://www.mori.art.museum)

最新のプレス画像は、こちらの URL より申請、ダウンロードいただけます。

<https://taylor.com/f/heatherwick-jp/>

**プレスリリース** お問い合わせ「ヘザウィック・スタジオ展：共感する建築」広報事務局(共同ピーアール内): 中込、菅原、國時、中井  
Tel: 03-6264-2059 E-mail: [hs-pr@kyodo-pr.co.jp](mailto:hs-pr@kyodo-pr.co.jp)

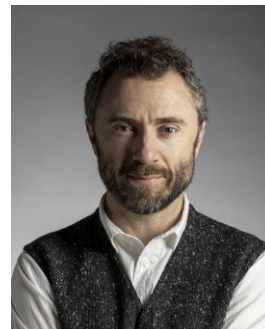
## トーマス・ヘザウィック

(ヘザウィック・スタジオ創設者)

トーマス・ヘザウィックは、英国で最も数多くの作品を手掛けるデザイナーの一人です。20年超のキャリアのなかで制作された多彩な作品群の特徴は、斬新さと独創性、人間味溢れるデザインにあります。1994年にスタジオを設立。建築、都市計画、プロダクト・デザイン、インテリア・デザインといった従来の枠組みを取り払い、これらをひとつのクリエイティブ・ワークスペースに集約しました。規模や場所、型式にとらわれることなく、さまざまな仕事を手掛け、現在ではクラフトマンシップとアイデアに溢れた200名のスタッフから成る、固定的なスタイルを持たないデザイン集団へと発展しました。定説や定論よりも体験を尊重し、環境への負荷を最小限に抑えつつ、人々の魂に訴えかけるような場所やモノを創り出しています。

現在ロンドンを拠点とし、東京都心にある6ヘクタールの複合施設《麻布台ヒルズ／低層部》をはじめ、ロンドンのグーグル新本社(ビャルケ・インゲルス・グループとのコラボレーション)、走行中に空気を浄化する電気自動車《エアロ》など、10カ国で30以上ものプロジェクトを手掛けています。

近年完了したプロジェクトに、グーグル社が初めて自ら設計した新社屋《グーグル・ベイ・ビュー》、ニューヨーク、ハドソン川にある公園と野外劇場を兼ねた《リトル・アイランド》、ケープタウンの《ツイツ・アフリカ現代美術館》、ロンドン、キングス・クロスの新しい大型商業地区《コール・ドロップス・ヤード》など。また、トーマス・ヘザウィックの新著『Humanise』(ペンギン社)が、2023年に出版予定。



トーマス・ヘザウィック  
撮影:ラケル・ディニス

## 展覧会の見どころ

- 日本初！ヘザウィック・スタジオの主要プロジェクト28件を一挙公開
- 試行錯誤を重ねた多様なプロジェクトの模型や素材サンプルなどを併せて展示
- ロンドン市内を走る二階建てバスも、ヘザウィック・スタジオが50年ぶりにデザインをリニューアル！天井高11m、展望台吹き抜けの大空間を活かし、高さ4mを超える原寸大模型(部分)を展示
- ヘザウィック・スタジオが日本の暖簾や垂れ幕に着想を得たユニークな展示デザイン
- ヘザウィック・スタジオがデザインした、遊び心いっぱいの回転椅子《スパン》に座って展望台からの景観も楽しめる空間が登場



《新ルートマスター(市バス)》 2012年 ロンドン 撮影:イワン・バーン



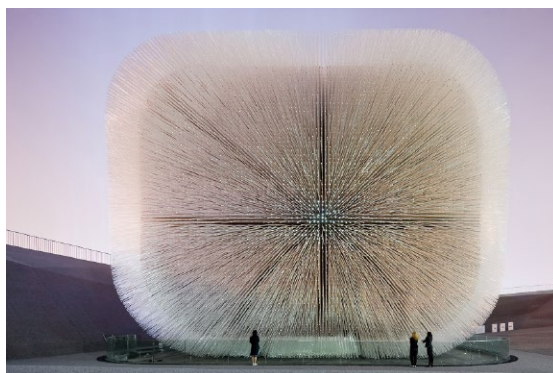
《麻布台ヒルズ／低層部》 2023年(予定) 東京  
© DBox for Mori Building Co., Ltd.

プレスリリース お問い合わせ「ヘザウィック・スタジオ展:共感する建築」広報事務局(共同ピーアール内):中込、菅原、國時、中井  
Tel: 03-6264-2059 E-mail: hs-pr@kyodo-pr.co.jp

## 展覧会を構成する6つのセクション

### セクション1 「ひとつになる」

「全体」は数々の「部分」によって構成されています。ヘザウィック・スタジオのデザインには、綿密に考案された細部が集合することで、強い説得力のある全体像が生まれているものが少なくありません。そこには、小さなパーツに宿る魂を集めて、人の心を動かすひとつの大きな空間を創出しようとするヘザウィック・スタジオの姿勢を垣間見ることができます。



《上海万博英国館》 2010年  
撮影:イワン・バーン

### セクション2 「みんなとつながる」

人々が自然に集い、会話が始まるような開放的な空間。ヘザウィック・スタジオのデザインには、閉鎖的になりがちな空間を開き、隣接する空間と繋げていくことで、自然の光や空気に触れながら、人と人が自ずと出会えるような意匠の配慮がみられます。



ヘザウィック・スタジオとビャルケ・インゲルス・グループ  
《グループ・ベイ・ビュー》 2022年  
カリフォルニア州マウンテン・ビュー  
撮影:イワン・バーン

### セクション3 「彫刻的空間を体感する」

ヘザウィック・スタジオのデザインの特筆すべき特徴のひとつが、彫刻的なかたちです。空間を体感することのできる建築物も、ヒューマン・スケールで発案されており、彫刻がそのまま大きくなった空間とも言えるでしょう。形状だけでなく、素材やそのテクスチャーにもアーティストや職人による手作業の温もりが残されています。



《海南舞台芸術センター》 2020年(契約) 中国  
Courtesy: Devisual

## プレスリリース

お問い合わせ「ヘザウィック・スタジオ展:共感する建築」広報事務局(共同ピーアール内): 中込、菅原、國時、中井  
Tel: 03-6264-2059 E-mail: hs-pr@kyodo-pr.co.jp

## セクション4 「都市空間で自然を感じる」

自然界にある新陳代謝のエコロジー。そこから生まれるエネルギーは、都市生活者の心に潤いや活気をもたらすものです。ヘザウィック・スタジオは、人々が親しみ、楽しむ場所をデザインし、心豊かで充実した体験を提供することで、持続的なプラス効果を生み出すことを常に目指しています。また、都市環境における自然のもたらす役割を検証したうえで植栽を行い、自然界のエネルギーをふんだんに都市空間に取り込みます。



《サウザンド・ツリーズ》 2021年 上海  
撮影：ジュー・チンヤン

## セクション5 「記憶を未来へつなげる」

歴史は人々の物語の蓄積です。建築物にもそこで時間を過ごした人々の記憶が宿っています。当初の役割を終えた建築物の記憶を未来へ繋げること。ヘザウィック・スタジオのデザインには、こうした使命感が感じられます。建物の元のデザインを活かして大胆な改装をする一方で、かつての状態へ修復、復元しようとするこだわりが随所に見られます。



《ツァイツ・アフリカ現代美術館》 2017年 ケープタウン  
撮影：イワン・バーン

## セクション6 「遊ぶ、使う」

ヘザウィック・スタジオのデザインは、遊び心に溢れています。円形から楕円に、楕円から円形に自由に形を変えることができる《フリクション・テーブル》は、人々のニーズに応じて家具に柔軟性を持たせるという大胆な発想によるものです。彫刻作品のような椅子《スパン》は、人が座ると弧を描きながら360度回転します。こうした柔軟で自由な発想の集積が、まさに建築という大きなスケールにも活かされていることがわかります。



《スパン》 2007年-  
Courtesy: Magis 撮影：スーザン・スマート

## プレスリリース

お問い合わせ「ヘザウィック・スタジオ展：共感する建築」広報事務局(共同ピーアール内)：中込、菅原、國時、中井  
Tel: 03-6264-2059 E-mail: hs-pr@kyodo-pr.co.jp